

# 「安全工学」執筆要領

(昭和37年4月1日 制定) (平成28年4月15日 最終改訂)

## 1. 一般事項

原稿は原則として、パソコンの文書作成ソフトウェアなどにより執筆する。用紙はA4判、縦置きで、横書き、余白は上下が約30mmずつ、左右が約40mmずつ。文字は10～12ポイントとする。文字数と行数は和文の場合24字×30行、英文の場合26行とし可能であればフォントをCentury Oldstとする。原稿用紙に執筆する場合は、事務局まで問い合わせること。

## 2. 表題

(1) 原稿の第1ページに、下記の例に従い、つぎの事項を書く。

原稿種別、表題、英文表題（必要な記事のみ）、著者名<sup>†</sup>（ダガー）、英文著者名（英文表題が必要な記事のみ）、連絡先（筆頭者でない場合）、原稿受付日、<sup>†</sup>所属機関名、同所在地、E-mail（掲載希望の場合）。ただし、原稿受付日は本学会で記入するからあけておく。

例. 原稿種別：論文

安全についての実験的考察

Experimental Study about Safety (単語頭は大文字)

環境太郎<sup>†</sup>・安全一郎<sup>†</sup>

Taro Kankyo<sup>†</sup> and Ichiro Anzen<sup>†</sup>

連絡先：安全一郎

年 月 日 原稿受付

<sup>†</sup> 安全工学部安全実験研究室

〒123-4567 東京都中央区港1-1

E-mail kankyo@anzen-u.ac.jp (掲載希望の場合)

(2) 表題は簡潔で一見して内容がわかるように工夫する。また、その1, (I) など、あらかじめシリーズとなることを示すものはできるだけ避け、一編ごとに別個の表題とする。

(3) 表題は和文の場合は25字以内、英文の場合は20語以内とする。

## 3. 要旨

要旨が必要な記事では、本文を参照しなくても要旨のみで内容がつかめるように本文と同一言語で第2ページに書く。和文の場合は360字以内、英文の場合は300語以内にまとめる。

## 4. キーワード

キーワードが必要な記事では、5語以内のキーワードを要旨のつぎに書く。なお2.～4.の表題部(表題、

要旨、キーワード)は刷上がり1/3ページに相当する。

## 5. 本文

- (1) 本文は原稿の第3ページから書く。
- (2) 本文の項目は、大項目1., 中項目1.1, 小項目1.1.1, 細項目(1)とする。箇条書きの行頭は「・」とする。
- (3) 和文は現代かなづかい、常用漢字を使用する。文体は和英とも、口語体で簡潔に表現する。
- (4) 図表を入れる場合は原稿に空白を作らず、本文中に図表の番号によって“(図1挿入位置)”のように記載し、その箇所を示す。図表は本文とは別にそれぞれ一括し、また図と表の重複は避ける。なお、図表の挿入位置は組版の都合で指定どおりとはならないことがある。
- (5) 外来語のうち、人名は原則として原文のままとし、すでに慣用化された地名、薬品名、術語などは和文としてもよい。
- (6) 単位は国際単位系(SI)を用い、必要であれば他の単位系を併記してもよい。記号、用語はできるだけ最近用いられているものとする。なお、本文中に使用する単位にはかっこを付けない。
- (7) 数式は論旨の展開に必要な最小限にとどめ、途中の展開経過は省略する。
- (8) 本文中に入れる数式は $a/(c+a)$ ,  $\exp(kt)$  など、1行で表現したものに限る。
- (9) 長い数式や複雑な数式は本文中には含めずに行を改めて書き、本文との間を上下とも1行ずつ空ける。やむを得ず数式が1段に収まらない場合は、図表に準じた扱いとし、別紙に数式を書き、本文中に挿入位置を記載する。
- (10) まぎらわしい文字で指示が必要と判断される場合は、原稿に朱書で注記を入れる。

## 6. 参考文献

- (1) 文献を引用する場合は「著者名<sup>1),2)</sup>」や「○○とされている<sup>1)~3)</sup>。」のように文献番号を本文中の引用する箇所に記入し、文献名は(2), (3), (4)に従い末尾に一括して示す。
- (2) 参考文献は下記の例に従い、雑誌の場合、著者名、表題、雑誌名、巻数-号、ページ(発行年)、単行本の場合、著者名、書名、ページ、出版社、出版地(外国文献のみ)(発行年)の順序で書く。

- (3) 雑誌の名称はできるだけ略誌名を用いる。  
 (4) ホームページアドレスなどのインターネット関連の引用はタイトルと URL を書く。

例.

- 1) 環境太郎, 環境被害に関する研究, 安全工学, 45-1, pp.44-48 (2006)
- 2) Johnson, D. A., Experimental Study of Burning Velocity, Comb. Rev., 88-1, pp.1-6 (1998)
- 3) 安全工学協会編, 新安全工学便覧, pp.162-174, コロナ社 (1999)
- 4) Thomas, M. G. and James, A. G., The Reliability of Analysis, pp.143-144, A Publishing, London (1998)
- 5) 会誌“安全工学”, <http://www.jsse.or.jp/publication/>

## 7. 脚 注

- (1) 脚注を使用する場合は, 本文中の脚注を付ける箇所を\*で示し, 脚注は\*を付けた原稿と同じ原稿の下部を横線で区切り, その下部に区別して書く。  
 (2) 脚注はできるだけ簡潔な文章で書き, 長文のものは付録にまとめるなどの工夫をする。

## 8. 図 (写真), 表

- (1) 図は, 1図1枚とし, 原稿と同じ大きさの用紙を用いる。  
 (2) 図は写真製版の原稿としてそのまま使用できる明瞭なものとし, 下部に図番号と説明を記す。図は印刷仕上りの約2倍で作成することが望ましい。図表内の文字の大きさを配慮すること。  
 (3) 写真は明瞭な陽画に限り, 図と同様に取扱う。原稿と同じ大きさの用紙に貼付し, 下部に図番号と説明を記す。番号が図と重複しないこと。  
 (4) 図 (写真) の原稿には1枚ごとに用紙の片隅に著者名を記入する。  
 (5) 挿入箇所は本文中に5.(4)によって指定する。  
 (6) 表は, 1表1枚とし, 原稿と同じ大きさの用紙を用いる。表番号と説明は表の上部に書く。  
 (7) 図 (写真), 表のスペースは, 既刊の安全工学誌を参考にし, 原稿の長さが超過しないように配慮する (ページ数は投稿規程を参照)。  
 (8) 図表内およびその説明の表記は, 論文および技術ノートでは英文, それ以外の記事では和文とする。但し, 意図が伝わりにくくなる場合はその限りでない。  
 (9) 図表の数は, 投稿規程を参照すること。  
 (10) 図表の体裁は, 図表見本を参考にすること。

## 9. 抄 録

論文と技術ノートの場合は, 抄録を書く。

- (1) 本文が和文の場合は英文, 本文が英文の場合は和文で書く。

- (2) 表題は, 次の事項を書く。

表題, 著者名, 所属機関名, 同所在地, E-mail (掲載希望の場合)

- (3) 抄録の文章の長さは, 論文の場合には300語 (英文時) または360字 (和文時) 以内, 技術ノートの場合には200語 (英文時) または240字 (和文時) 以内とする。いずれも, 図, 表を含んではならない。

- (4) 抄録は原稿と同じ大きさの用紙に書く。

- (5) キーワードを5語以内で記入する。

例 Experimental Study about Safety (単語頭は大文字)

by Taro Kankyo<sup>†</sup> and Ichiro Anzen<sup>†</sup>

<sup>†</sup>Safety Lab., Faculty of Engineering, Safety University, 1-1 Minato, Chuo-ku, Tokyo, 123-4567 JAPAN

kankyo@anzen-u.ac.jp (掲載希望の場合)

(1行空ける)

This study is typical research of...

Key words : Safety Belt (単語頭は大文字)

## 10. そ の 他

- (1) 原稿の体裁に問題があるものについては, 編集委員会から修正を要請することがある。  
 (2) 他誌からの転載, 先行論文の引用等では問題が生じないように留意すること。なお, これらの諸問題については著者の責任とし, 編集委員会では責任を負わない。

## 11. 適 用

本執筆要領は平成28年4月15日から適用する。

図表見本 (英文の場合)

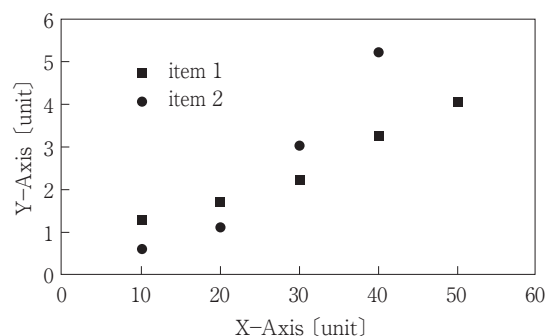


Fig. 1 Relationship between A and B

Table 1 Relationship between Factor and Item

Factor	Item 1	Item 2	Item 3
A	123	345	567
B	333	222	111
Total	456	567	678